



「地域と連携した技術開発による貢献を」

商工労働部長 六 反 省 一

このたび、4月1日付けで商工労働部長に就任いたしました六反です。

県内企業及び関係団体の皆様には、県商工労働部及び工業技術センター等の施策に関しまして、日頃から様々のご協力、ご支援をいただき感謝いたしております。

さて、今日、経済のグローバル化が急速に展開する中で、都市部と地方の社会資本の整備や所得・雇用水準など、格差がさらに拡大しつつあることが懸念されるところであります。現在、経済発展の恩恵は、大都市などの一部の地域が受けるにとどまり、地方の経済状況は総じて低迷しております。

こうした中、鹿児島県におきましては、本年3月に、概ね10年程度の中長期的な観点から本県のあるべき姿や進むべき方向性を示した「かごしま将来ビジョン」を策定したところであり、今後、このビジョンに基づく様々な取組に全力で挑戦してまいりたいと考えております。とりわけ産業の分野におきましては、「新時代に対応した戦略的な産業おこし」の挑戦を掲げ、特に重点業種である自動車・電子・食品関連産業を中心に、積極的な企業誘致活動を推進するとともに、地域資源など地域の特性を生かした新たな産業の創出を図ることとしております。

これまで、工業技術センターは「技術的な拠りどころ」として、地域企業等との産学官連携による共同研究等を積極的に推進し、その研究成果を地域企業に技術移転し、実用化や商品化を図りながら、本県産業の高付加価値化や技術の高度化に寄与してきております。企業との共同研究が商品化された近年の例としましては、低カロリーもろみ酢や、さつまいも麴を用いた全量いも仕込み焼酎、発明表彰を受賞した緑化基盤材や、環境大臣表彰を受賞した遮熱塗料などシラス関連商品が各

方面から大変注目を集めております。

今年度は、新たな研究テーマとして、「微小金属部品の高効率成形加工に関する研究」、「発酵技術活用による菓子素材の開発」、「人間工学を利用したユニバーサルデザインの研究」、「車いす座面の最適形状計測システムの開発」等を含む21テーマの研究開発を実施しております。

また、平成19年3月に策定した「九州各県工業系公設試の連携に関するビジョン」に基づく共同研究として、「マグネシウム合金に関する研究」、「難削性金属材料の切削加工技術の高度化研究」、「竹資源を活用したカスケード型利用研究」なども実施しているところであります。

工業技術センターは、工業技術の高度化、複合化に対応するとともに、本県の工業技術振興の先導的・指導的役割を総合的に発揮するため、工業試験場、機械金属技術センター及び木材工業試験場の3機関を再編統合し、昭和62年12月に創立され、昨年12月をもって20周年を迎えており、その役割はますます重要性を増してきております。

今後とも、大学、(社)鹿児島県工業倶楽部、(財)かごしま産業支援センター等地域の各種団体等との連携、協力を図りながら、機能の強化、業務の充実を図り、本県産業の振興・発展に全力で貢献してまいりたいと考えております。

産業界をはじめ関係の皆様におかれましても、今後とも工業技術センターを十分に活用していただき、新事業や新産業の創出に結びつく研究開発に取り組み、本県地域経済の活性化に大きく寄与していただきたいと考えております。